

令和5年度
児童生徒の近視実態調査
事業結果報告書

調査受託事業者
イーピーエス株式会社

令和5年度の調査事業結果を以下の要領でまとめたので、ここに報告する。

1. 事業報告書

主に、事業の主旨、事業内容をまとめた文書

2. 調査報告書

主に、調査概要、調査の目的・対象、調査期間、調査方法・項目、調査結果をまとめた文書

調査結果の詳細を記した「令和5年度解析結果報告書」は別添とした

参考資料として、「用語の解説」、「生活アンケート（小学生用・中学生用）」を巻末に掲載した

目次

1】事業報告書	3
1. 背景（事業の趣旨）	3
2. 事業内容	4
2.1. 令和5年度の調査に向けた準備	4
2.2. 調査	4
2.3. データ管理・解析	4
2.4. 報告書や啓発資料の作成	5
2】調査報告書	6
1. 令和5年度調査概要	6
1.1. 眼科検査受検者数	6
1.2. 解析内容	6
1.3. 生活アンケート	7
1.4. 学校アンケート	7
2. 調査結果	7
2.1. 調査目的	7
2.2. 調査対象	7
2.3. 調査期間	8
2.4. 調査方法、項目	8
2.4.1. 調査方法	8
2.4.2. 調査項目	10
2.5. 調査結果	11
2.1. 記述疫学に係る集計データ	11
2.1.1. 解析対象者の性別・学年	11
2.1.2. 解析対象者の体格（身長・体重）	11
2.1.3. 370方式視力測定に基づく裸眼視力判定の分布	12
2.1.4. 370方式視力測定に基づく矯正視力判定の分布	12

1] 事業報告書

1. 背景（事業の趣旨）

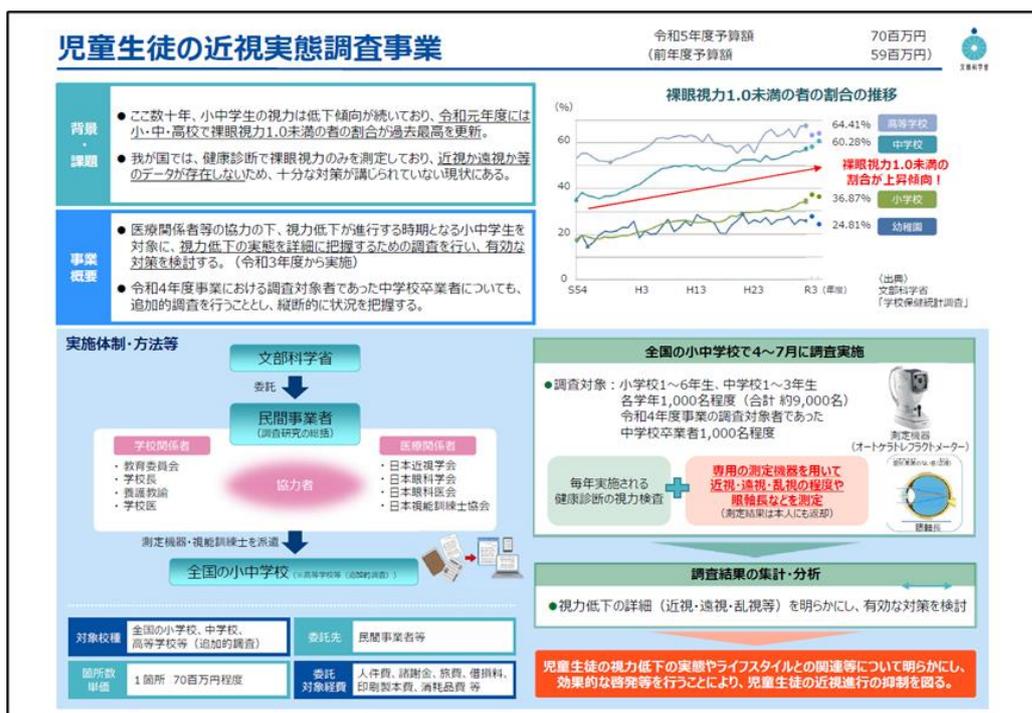
文部科学省の学校保健統計調査によると、児童生徒の裸眼視力 1.0 未満の者の割合は調査開始の昭和54年から一貫して増加傾向にあり、小・中・高等学校では過去最高を更新した。また、社会のデジタル化の進展に伴い、児童生徒が ICT 機器に接する機会は増加しており、GIGA スクール構想やデジタル教科書の使用などの取組も進む中で、ICT 機器の利用による視力への影響に対する関心が高まっているところである。

また、世界に目を向けると、東アジアを中心に近視人口は爆発的に増加しており、オーストラリアの研究者らは、2050年には世界の人口の半数が近視になると警鐘を鳴らしている。このような中、台湾を例にとると、2001年から児童生徒を対象とした大規模な視力の調査研究が開始されており、2010年から近視の進行抑制を目的に学校教育活動における児童生徒の屋外活動を2時間確保した結果、視力 0.8 以上の児童生徒の割合は増加に転じている。

一方、我が国では、児童生徒等の健康診断によって毎学年児童生徒等の裸眼視力を把握しているものの、その詳細（近視か遠視か等）が明らかでないため、十分な対策が講じられていない状況にある。

このような状況を踏まえ、令和3年度から、児童生徒の視力低下の実態を詳細に把握するため、全国の小・中学校で近視実態調査を実施しているところであり、令和5年度も継続して調査を行い、有効な対策を検討することとしている。なお、この調査は、原則として毎年度6月末日までに行われる児童生徒の健康診断と併せて行うこととしているため、令和4年度中に翌年度の事業計画の作成や必要な準備を行い、令和5年度の事業を円滑に進める必要がある。

図1. 令和5年度児童生徒の近視実態調査事業の概要



2. 事業内容

令和4年度中に、令和5年度に実施する児童生徒の近視実態調査に向けた事業計画の作成など必要な準備を行った。令和5年度に調査を実施し、調査結果報告書を作成した。その際、調査結果のデータ管理を行ったとともに、調査や報告書の作成に当たっては、専門家の意見を聞きながら進めた。

さらに、本事業は令和3年度から継続して実施していることから、令和5年度は、児童生徒の近視の状況を縦断的に分析した

2.1. 令和5年度の調査に向けた準備

- ・ 令和5年度調査の調査実施計画書の作成
- ・ 本事業を令和5年度に円滑に実施するために令和4年度中に行うことが必要な準備
(調査の方向性について調査準備委員会において議論の上、調査実施に必要な機器や人員の調達・確保、教育委員会や関係団体等との連絡調整 等)

2.2. 調査

- ・ 教育委員会や学校との連絡調整及びオペレーションの打合せ・説明
- ・ 学校からの学校健康診断結果のうち必要なデータ(身長等)の受け取り
- ・ 保護者への説明と同意書の作成・配布・回収
- ・ 児童生徒向けアンケート及び学校向けアンケートの印刷・配布・回収
- ・ 各学校への測定機器の配置(学校ごとの状況に応じた円滑な搬入・設営・搬出の指示、レンタル業者への支払い、トラブル発生時等の対応等)
- ・ 眼科医、視能訓練士及び補助員の配置(必要な情報の事前説明、欠員が生じた場合の調整、謝金支払い等)
- ・ 個人と紐づいた測定データの取得、蓄積
- ・ 各学校における測定当日の現場監督、円滑な進行の管理及び不測の事態への対応

2.3. データ管理・解析

- ・ アンケート、測定結果、学校から受け取った身長等データの突合
- ・ アンケート集計、測定結果集計
- ・ 本人(家庭)への結果返却(測定結果及びその分析)
- ・ 学校へのデータによる情報提供
- ・ データの管理・解析
- ・ データ取扱規約の策定

2.4. 報告書や啓発資料の作成

- ・ 調査実行委員会の運営
- ・ 調査結果報告書のとりまとめ、啓発資料の作成

2] 調査報告書

1. 令和5年度調査概要

調査対象者8,905名のうち、各調査日に登校していた児童生徒を対象に調査を実施した。なお、調査日以前に転出した児童生徒および調査当日の欠席者においては、調査は実施していない。

調査用に収集したデータは「データ取扱い規約」に則って取扱い、学校より提供された健診データにおいて疑義照会の必要なデータが確認された場合は、養護教諭を通じて照会を行い、疑義を解消した。

集計データは、解析業務委託業者へ提供し、解析作業を委託した。解析対象者数は、眼科検査未受検者も含めた8,905名とした。

1.1. 眼科検査受検者数

調査実施日における眼科検査の受検者数は、8,417名だった（未検者488名）。

参考までに、令和3年度の受検者数は8,333名、令和4年度の受検者数は8,387名だった。

1.2. 解析内容

令和3年度に立てた計画に加え、令和5年度では令和3年度からの経年変化について、解析内容を加えた。解析内容の概要を表1に示した。

表1. 令和5年度の解析内容（概要）

1. 単年度の記述疫学	2. 経年変化解析 - 記述疫学
1-1. 学年別一性別の分布集計	・2021-2023年度の3年間にわたり追跡可能なデータを解析の対象とする
1-1-1. 裸眼視力・矯正視力	・2021年度時点の学年に基づき、第I-VIIの7群に分け、各測定結果（裸眼視力、眼軸長、近視等）の集計を行う
1-1-2. レフラクト・ケラトメータの測定値	・生活アンケート結果について、3年間の推移を集計する
1-1-3. 光学式眼内寸法測定装置の測定値	3. 経年変化解析 - 関連性解析
1-1-4. アンケート集計	・2021-2023年度の3年間にわたり追跡可能なデータを解析の対象とする
1-2. 体格（身長・体重）別の分布集計	・2021年度で調査した生活習慣（生活アンケートの結果）が、測定結果にどのような影響を及ぼしているかを集計する
1-2-1. 裸眼視力・矯正視力	・アウトカムとする新規イベントは、裸眼視力の悪化（視力A→B/C/D）、裸眼視力判定の急激な悪化（視力A→D）、近視の新規発症とする
1-2-2. レフラクト・ケラトメータの測定値	・近視の因子として重要な眼軸長及び等価球面度数についても解析を行う
1-2-3. 光学式眼内寸法測定装置の測定値	
1-3. 「370式裸眼力区分」別の集計	
1-3-1. 裸眼視力・矯正視力	
1-3-2. レフラクト・ケラトメータの測定値	
1-3-3. 光学式眼内寸法測定装置の測定値	
1-3-4. 裸眼視力と近視	

1.3. 生活アンケート

全17問で構成される記述式アンケートを、小学生においては保護者に、中学生においては調査対象者本人に回答していただくこととし、調査方法を記した文書と調査票を合わせて各学校を通じて、児童生徒1名に1部ずつ配布し、回答していただいた。

配布対象は、「2.3 調査対象」の項で記した 8,905 名とし、8,402 名より調査票を回収した（回収率：94.4%(前年比-0.2%)）。

1.4. 学校アンケート

全 14 問で構成される電子データ (Excel) で作成したアンケートを養護教諭あてにメールに添付して配布した。回答入力後、同様にメールに添付して提出いただいた。

小学校 17 校、中学校 12 校より回答を得た（回収率 100%）。

2. 調査結果

2.1. 調査目的

一般に近視が進行する年齢段階である義務教育段階の児童生徒を対象として、機器を用いて眼の状態や屈折の状況を測定し、それと同時に簡単なアンケート調査も行うことにより、近視の正確な実態や生活習慣との関係、近視の予防方法を明らかにすることを目的とした。

2.2. 調査対象

令和 2 年度に、各都道府県・指定都市教育委員会学校保健主管課及び各国立大学法人担当課を対象に行われた調査事業への参加募集説明会後に参加意思を表明した全 29 校で、かつ令和 3 年度から調査実績のある小中学校に在学している児童生徒を調査対象とした。

調査実施に先立ち、本調査事業の目的、調査より得られたデータの利活用等について説明した文書を保護者あてに交付し、調査協力の意思を確認した上で、不同意を表明した 77 名を除く 8,905 名を調査対象とした。

表 2. 調査対象者の概要

学年		小学校						中学校			支援学級	合計
		1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	1 年生	2 年生	3 年生		
性別	男子	473	444	485	457	493	438	558	626	621	34	4,629
	女子	434	412	432	433	438	469	527	556	538	19	4,258
	記載なし	0	3	6	3	4	1	0	1	0	0	18
合計		907	859	923	893	935	908	1,085	1,183	1,159	53	8,905
割合		10.2%	9.6%	10.4%	10.0%	10.5%	10.2%	12.2%	13.3%	13.0%	0.6%	100.0%

※調査校から提出された対応表に基づき学年・クラス（支援学級）を表示した

2.3. 調査期間

令和5年4月～7月

2.4. 調査方法、項目

2.4.1. 調査方法

(ア) 令和5年度初めに策定した事業計画に基づき、調査校29校へ調査実施日に合わせて、調査チームを派遣した。

(イ) 調査チームは、眼科医、視能訓練士（又は看護師）、検査補助員及び現場監督者で構成した。なお、眼科医については、学校医もしくは日本眼科医会の協力を得て、調査日に派遣可能な人員を現場へ配置した。視能訓練士については、日本視能訓練士協会または眼科医の勤務先に従事している視能訓練士（または看護師）の協力を得て、調査日に派遣可能な人員を現場へ配置した。検査補助員に関しては、短期アルバイト者または眼科医の勤務先の事務職員などを起用した。

(ウ) 調査の実施に先立ち以下の事項について、各校の窓口担当者へ確認し調整を図った。

- ① 調査を実施する会場の確保
- ② 検査を受ける児童生徒の調査当日の会場内の動線の確認
- ③ 検査を受ける学年の順番の確認
- ④ 不同意などで検査を受けない児童生徒の待機場所の確保
- ⑤ 検査機器の搬出入経路および搬出入時間の確認
- ⑥ 調査チームの来校可能時間や集合場所として利用可能な場所の確認
- ⑦ 調査チーム用駐車場の確保

(エ) 調査日における人員配置：眼科医1名、視能訓練士（または看護師）6～8名^{※1}、検査補助員6～8名^{※1}、現場監督者1名、現場担当者1名の計15～19名で構成

※1：調査会場に設置した機器の台数に合わせて配置

(オ) 調査実施日には、検査機器メーカー立ち合いのもと測定機器をトラック等で輸送し、調査会場へ配置した。会場内の設置に際しては、機器メーカー並びに眼科用機器を専用に取り扱っているディーラーに協力を要請した。

(カ) 調査実施方法：調査会場の設営例を図2に示した。測定機器として、光学式眼内寸法測定装置1台、続いてレフラクト・ケラトメータ1台を縦列に配置し、これを軸に調査対象の児童生徒数や会場の広さ等を考慮して2～4列に調査レーンを設営した。

(キ) 調査当日は、養護教諭または各クラス担任に児童生徒を調査会場まで引率いただき、会場入場後は現場監督者を中心に調査実施方法を児童生徒に説明の上、各調査レーンに児童生徒を整列させて、順次、検査測定を行った。（図3）

(ク) 新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日に第5類感染症に位置づけが変更されたが、会場設

営は令和4年度までと同様の感染対策を講じて、調査に当たった。即ち、調査対象者には、検査測定前に手指消毒剤にて手指消毒に協力いただいた。検査測定者（視能訓練士、看護師等）にはディスプレイ手袋を装着いただき、検査の都度、手指消毒剤にて手指消毒を行った上で検査を実施いただいた。1児童生徒の検査実施毎に、検査機器と人が接触する部分（額面、顎面、手指）は検査補助員により手指消毒剤にて消毒を施した。会場入室の際は、マスク着用を必須とした。

図2. 調査会場の設営例

図2-1. 会場内の設営（通常例）

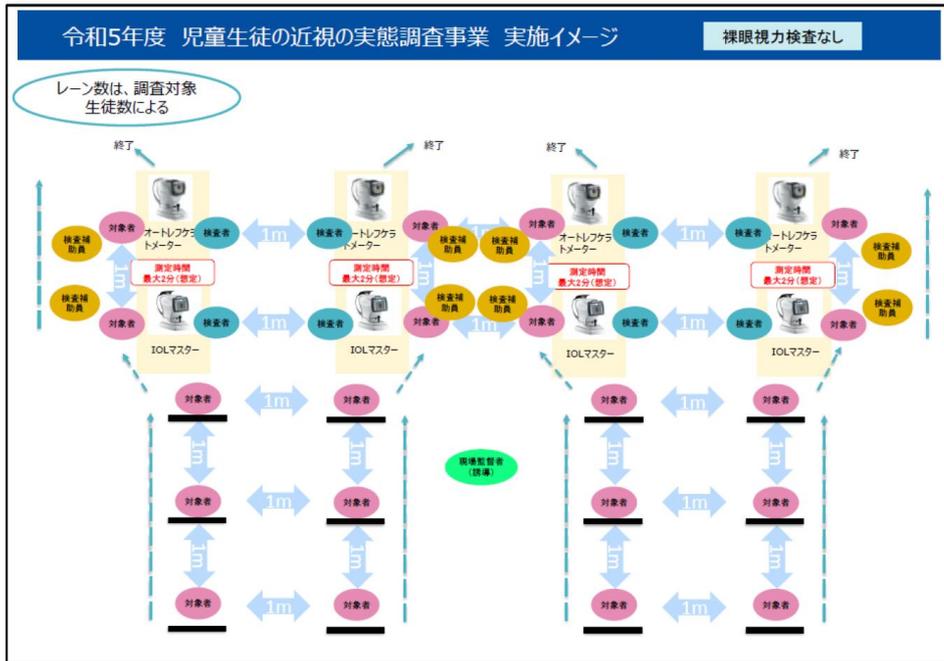
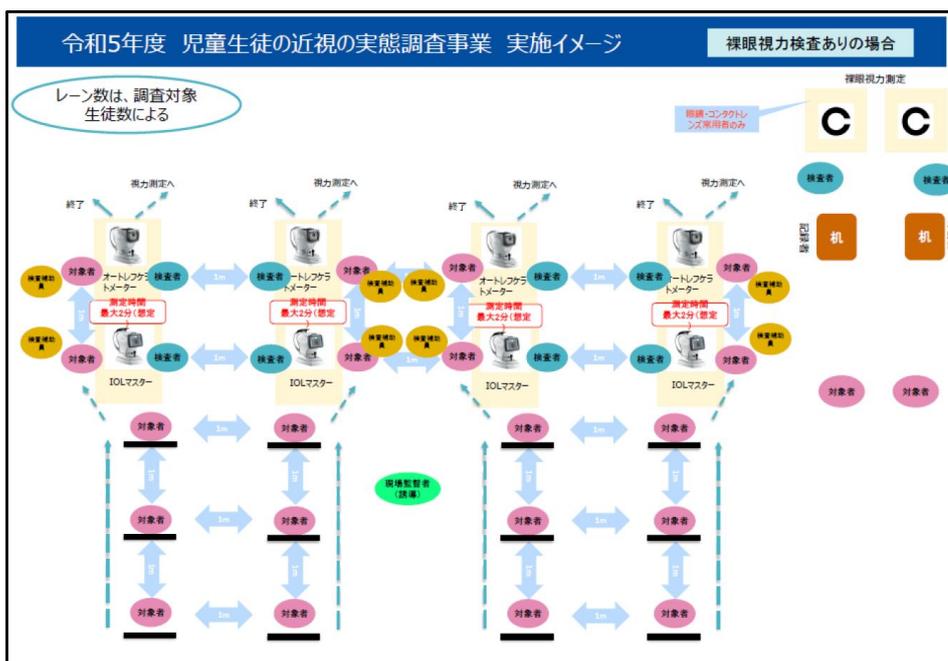


図2-2. 会場内の設営（裸眼視力測定を調査チームが請け負う場合）



(4) 生活アンケート

(5) 学校アンケート

2.5. 調査結果

2.1. 記述疫学に係る集計データ

解析結果報告書に基づき、令和5年度の疫学データを学年別に示した。調査校毎の詳細データは解析結果報告書に記されていることから、ここでは全体の集計結果のみ表記することとした。

2.1.1. 解析対象者の性別・学年

以下に学年ごとの解析対象者数と性別及び学年別の分布を示す。学校から提供された対応表に性別の表記がなかった児童生徒は不明に含めた。

表 3. 小学生の解析対象者数と、性別・学年別の分布集計

全数	男	女	性別不明	小1	小2	小3	小4	小5	小6	支援
5,478	2,824	2,637	17	907	859	923	893	935	908	53

表 4. 中学生の解析対象者数と、性別・学年別の分布集計

全数	男	女	性別不明	中1	中2	中3
3,427	1,805	1,621	1	1,085	1,183	1,159

2.1.2. 解析対象者の体格（身長・体重）

身長を 10 cm ごとに分類し、小学生・中学生に分けて、以下にその分布を示す。

表 5. 小学生の体格別（身長）の分布集計

全数	100 cm 未満	100～109 cm	110～119 cm	120～129 cm	130～139 cm	140～149 cm	150～159 cm	160～169 cm	170～179 cm	180 cm 以上	記載無
5,478	0	83	894	1512	1472	1059	375	38	1	0	44

表 6. 中学生の体格別（身長）の分布集計

全数	100 cm 未満	100～109 cm	110～119 cm	120～129 cm	130～139 cm	140～149 cm	150～159 cm	160～169 cm	170～179 cm	180 cm 以上	記載無
3,427	0	0	0	0	30	488	1520	1045	273	8	63

体重を 10 kg ごとに分類し、小学生・中学生に分けて、以下にその分布を示す。

表 7. 小学生の体格別（体重）の分布集計

全数	10 kg 未満	10～19 kg	20～29 kg	30～39 kg	40～49 kg	50～59 kg	60～69 kg	70～79 kg	80～89 kg	90 kg 以上	記載無
5,478	0	421	2624	1554	636	157	34	4	3	1	44

表 8. 中学生の体格別（体重）の分布集計

全数	10 kg 未満	10～ 19 kg	20～ 29 kg	30～ 39 kg	40～ 49 kg	50～ 59 kg	60～ 69 kg	70～ 79 kg	80～ 89 kg	90 kg 以上	記載無
3,427	0	0	20	478	1,418	1,006	298	92	39	12	64

2.1.3. 370 方式視力測定に基づく裸眼視力判定の分布

370 方式視力測定法に基づく、裸眼視力判定の結果の分布を以下に示す。学校から提供された対応表に視力の表記がなかった生徒は「記載無」と表記した。

表 9. 小学生の 370 方式視力測定法に基づく裸眼視力判定の結果

全数	右裸眼					左裸眼				
	A	B	C	D	記載無	A	B	C	D	記載無
5,478	3,618	623	638	520	79	3,516	694	665	524	79

表 10. 中学生の 370 方式視力測定法に基づく裸眼視力判定の結果

全数	右裸眼					左裸眼				
	A	B	C	D	記載無	A	B	C	D	記載無
3,427	1,356	350	568	974	179	1,369	359	548	970	181

2.1.4. 370 方式視力測定に基づく矯正視力判定の分布

370 方式視力測定法に基づく矯正視力判定の結果の分布を示す。矯正視力は眼鏡を持参した児童生徒のみ測定されるため、裸眼視力に比べて測定数は少なくなる。以下の「記載無」には、眼鏡を所持していない児童生徒（裸眼のみ測定した児童生徒）と、眼鏡を所持していたがデータ収集がなされていない児童生徒が混在している点に留意する。

表 11. 小学生の 370 方式視力測定法に基づく矯正視力判定の結果

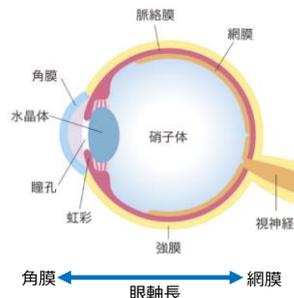
全数	右矯正					左矯正				
	A	B	C	D	記載無	A	B	C	D	記載無
5,478	301	188	209	39	4,741	296	193	205	42	4,742

表 12. 中学生の 370 方式視力測定法に基づく矯正視力判定の結果

全数	右矯正					左矯正				
	A	B	C	D	記載無	A	B	C	D	記載無
3,427	427	337	387	59	2,217	433	333	378	68	2,215

50音順	用語	解説
か行	か 角膜曲率半径	目の表面を覆っている「角膜」が描くカーブの度合い
	か 角膜乱視	目の表面を覆っている「角膜」が描くカーブがある方向に歪んでいる状態
	か 角膜乱視軸	目の表面を覆っている「角膜」が描くカーブがある方向に歪んでいるときに、角膜の歪みの少ない方向を角度で表したものの
	か 角膜厚	角膜の厚み
	が 眼軸長	がんじくちよう：眼の表面（角膜）から眼の奥（網膜）までの長さ 小学1年生の正常な眼軸長（目の奥行き長さ）はおおよそ22～23mmで、成人までにおおよそ23～24mmとなる
	が 眼軸長/平均角膜曲率半径比（AL/CR比）	平均角膜曲率半径（目の表面を覆っている「角膜」が描くカーブの度合い）で、眼軸長（角膜の頂点から網膜までの長さ）を割った数値
	き 球面度数	近視や遠視の度合い。数値の絶対値が大きくなるほど目が悪いという判断になる。近視は数値の前に「-(マイナス)」がつき、遠視の場合は「+(プラス)」がつく
	き 近視有病割合	ある一時点(調査時点)において、近視を有している人の割合。(集団のある一時点における近視を有する者の数を、集団の調査対象全員の数で割った割合)
	き 強度近視	近視の程度が強いことで、一般的には-6.0D（ディオプター：屈折の単位）またはそれより強い近視と定義される。近年は眼軸長を用いて定義している報告もある
	き 近業	テレビやゲームを近くで見る、スマートフォン・携帯・タブレット・パソコン画面・本を近くで見る、など近くでものを見て作業をする生活行動のこと
	く 屈折異常	眼に入った光のピントが、網膜上の1点に焦点を結ばない状態。近視・遠視・乱視などが含まれる
	く 屈折検査	遠視・近視・乱視の度数を調べる検査
	こ	光学式眼内寸法測定装置
さ行	さ 370式裸眼視力区分	0.3、0.7、1.0の3種類の大きさの視力表を使って、眼鏡やコンタクトレンズなどによる矯正をしていない視力を検査する。その結果をA(1.0以上)、B(0.7-0.9)、C(0.3-0.7)、D(0.3未満)と区分したもの
	さ 370方式視力測定法	0.3、0.7、1.0の3種類の大きさの視力表を使って視力を検査する方法。A(1.0以上)、B(0.7-0.9)、C(0.3-0.7)、D(0.3未満)という判定をおこなう
	じ 軸性近視	眼軸長(眼の表面(角膜)から眼の奥(網膜)までの長さ)が過剰に伸びることによって、生じる近視のこと
	す 水晶体厚	水晶体は、目の瞳の奥にある直径9mm、厚さ3.5mmほどの凸レンズ状の透明な組織で、カメラのレンズと同じような働きをする。水晶体厚は水晶体の厚みのこと。水晶体が厚さを自由に変わることによって、眼に入った光が、網膜上で焦点を結ぶようにピントを合わせている
	ぜ	前房深度
た行	ち 調節麻痺下屈折検査	調節とは、近くの物を見ようとする時、目の中の筋肉が緊張して水晶体の厚みを増し、ピント合わせをすること。調節麻痺下屈折検査とは、調節を麻痺させる薬を点眼して、目の屈折度数（近視・遠視・乱視など）を調べる検査のこと。調節の介入を排除して、子どもの屈折度数を正確に測定するときに行う
	ち 調節麻痺薬	調節力（目の中の筋肉が緊張して水晶体の厚みを増し、ピント合わせをする力）を麻痺させる点眼薬。アトロピン点眼薬、サイプレジン点眼薬など
	と 等価球面度数	乱視度数の半分を、球面度数に加算したもの。球面度数だけでなく、乱視の度数も総合して、近視や遠視の度合いを示したもの。数値の絶対値が大きくなるほど目が悪いという判断になる。近視は数値の前に「-(マイナス)」がつき、遠視の場合は「+(プラス)」がつく
は行	ひ 非調節麻痺下屈折検査	調節とは、近くの物を見ようとする時、目の中の筋肉が緊張して水晶体の厚みを増し、ピント合わせをすること。非調節麻痺下屈折検査とは、調節を麻痺させる薬を点眼せずに、目の屈折度数（近視・遠視・乱視など）を調べる検査のこと。子どもでは調節が介入しやすく、調節麻痺を行わない検査では、屈折度数が近視側にずれやすい
ら行	ら 乱視度数	乱視とは、角膜や水晶体のゆがみによって、眼に入った光のピントが、網膜上の1点に焦点を結ばない状態。文字やものが二重に見える、ぶれて見える、ぼけて見えるなどの症状が現れる。一般的な乱視は「円柱レンズ」で矯正されるが、この時の円柱レンズの強さを、数値で表したものが乱視度数。数値が大きくなるほど強い乱視を示す
	ら 乱視軸	乱視とは、角膜や水晶体のゆがみによって、眼に入った光のピントが、網膜上の1点に焦点を結ばない状態。文字やものが二重に見える、ぶれて見える、ぼけて見えるなどの症状が現れる。一般的な乱視は「円柱レンズ」で矯正されるが、この時の円柱レンズの軸と平行な方向が乱視軸となる
	ら 裸眼視力不良者	眼鏡やコンタクトレンズなどによる矯正をしていない視力が、1.0よりも低い者。370方式裸眼視力区分がB判定以下（B、C、Dのいずれか）に該当する者
	れ	レフラクト・ケラトメータ

眼の構造



〇〇小学校
〇年〇組

アンケート調査へのご協力をお願い

小学生用

近視に関連すると考えられている屋外活動と近業（眼の近くで作業をすること）などについてお聞きします。お子さまからお話を聞いて、保護者の方が記入するようお願いします。

※このアンケートや目の測定データは、調査用の番号により管理されます。お子さまの氏名情報が学校の外に出ることはありません。

※回答用紙をなくした場合には、必ず学校に相談してください。お友達のをコピーして使わないでください。

※記入済みのアンケートは、封筒に入れて提出してください。この時、アンケート調査票に表示されている10桁の番号のうち下3桁を提出用封筒の所定の欄に、記載してから、封入してください。

2) 休目についてお答えください。						
Q13	屋外にいる時間は1日平均どのくらいですか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q14	読書や絵などで、1日平均どのくらい勉強や読書を行いますか？ <small>(パソコンやタブレット端末によるものも含みます)</small>	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q15	パソコンやタブレット端末（種別に応じて「タイプ別」のもの）を、1日平均どのくらい使いますか？ <small>(勉強以外の用途も 含みます)</small>	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q16	画面を手に持ち、文字を見ながら楽しむタイプの機器（スマートフォン、ゲーム機（DSなど）、手のひらサイズの電子書籍（Kindleなど））を、1日平均どのくらい使いますか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q17	テレビ画面を1日平均どのくらい視聴しますか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上

調査票番号：21-09-004-102

提出用封筒

1 0 2

例示
(同じ数字を記載しないよう、ご注意ください)

調査票番号：

児童生徒の近視実態調査（生活アンケート）

近視に関連すると考えられている、屋外活動や近業（目の近くで作業をすること）などについてお聞きします。お子さまからお話を聞いて、保護者の方が記入するようお願いいたします。設問ごとに、最も近いと思われる答えを一つ選んで、答えを○で囲んでください。

Q1	眼鏡またはコンタクトレンズを使用していますか？	使用していない	眼鏡のみ 使用している	眼鏡及びコンタクトレ ンズを使用している	コンタクトレンズのみ を使用している	
Q2	オルソケラトロジー（夜のみつけるコンタクトレンズ）を現在または半年以内に装着していますか？	はい	いいえ			
Q3	ご両親に近視の方はいますか？ ※答えたくなければ、答えなくてもかまいません。	いいえ	父親のみ 近視	母親のみ 近視	両方とも 近視	わからない・ 答えたくない

下の質問のうち、「平日」とは月曜から金曜の学校のある日を指します。また、「休日」とは、「土日祝日」などの学校のない日を指します。過去1カ月の平均をお答えください。設問ごとに、最も近いと思われる答えを一つ選んで、答えを○で囲んでください。

1) 平日についてお答えください。

Q4	学校の休み時間（昼休みも含む。）には、屋外に出ますか？	ほとんど外に出ない	昼休みや、長い休 み時間に、たまに	昼休みや長い休み時 間は、半分くらい	昼休みや長い休み 時間は、たいてい	短い休み時間でも、 出られるときはいつも 外に出る
Q5	学校の授業や休み時間以外で、屋外にいる時間（登下校の時間は含みません）は1日平均どのくらいですか？ ※学校が終わった後の外遊びや、登校前の野外活動、屋外での朝練や放課後練などの合計を答えてください。	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q6	学校への登下校のうち、徒歩または自転車の往復時間を教えてください。	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 40分未満	40分以上
Q7	学校以外（家庭や塾など）で、1日平均どのくらい勉強や読書をしますか？ （パソコンなどデジタル機器を使っている時間は含みません）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q8-1	学校以外（家庭や塾など）で、パソコンやタブレット端末（机において使うタイプのもの）を、1日平均どのくらい使用しますか？ （勉強以外の時間も、含みます）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q8-2	パソコンやタブレット端末を、30分以上続けて使わないなど、目を休めるためのルールを家庭で（自分で）決めて使っていますか？	ルールは決めていない	20分～30分使っ たら、いったん目を 休めている	1時間使ったら、いっ たん目を休めている		
Q9-1	画面を手で持ち、手元を見ながら楽しむタイプの機器（スマートフォン、ゲーム機（DSなど）、手のひらサイズの電子書籍（Kindleなど））を、1日平均どのくらい使用しますか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q9-2	スマートフォンやゲーム機などを、30分以上続けて使わないなど、目を休めるためのルールを家庭で（自分で）決めて使っていますか？	ルールは決めていない ルールは決めたがあまり 守れていない	20分～30分使っ たら、いったん目を 休めている	1時間使ったら、いっ たん目を休めている		
Q10	テレビ画面を1日平均どのくらい視聴しますか？ （ゲーム機をつないで使用する場合も含む）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q11	平均何時に起きますか？	5:00より前	5:00-5:59	6:00-6:59	7:00-7:59	8:00以降
Q12	平均何時に寝ますか？	21:00より前	21:00-21:59	22:00-22:59	23:00-23:59	24:00以降

2) 休日についてお答えください。

Q13	屋外にいる時間は1日平均どのくらいですか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q14	家庭や塾などで、1日平均どのくらい勉強や読書をしますか？ （パソコンなどデジタル機器によるものを含みません）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q15	パソコンやタブレット端末（机において使うタイプのもの）を、1日平均どのくらい使用しますか？ （勉強以外の時間も、含みます）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q16	画面を手で持ち、手元を見ながら楽しむタイプの機器（スマートフォン、ゲーム機（DSなど）、手のひらサイズの電子書籍（Kindleなど））を、1日平均どのくらい使用しますか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q17	テレビ画面を1日平均どのくらい視聴しますか？ （ゲーム機をつないで使用する場合も含む）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上

調査票番号：

〇〇中学校
〇年〇組

アンケート調査へのご協力をお願い

中学生用

近視に関連すると考えられている屋外活動と近業（目の近くで作業をすること）などについてお聞きします。ご本人が記入をしてください。

※このアンケートや目の測定データは、調査用の番号により管理されます。あなたの氏名情報が学校の外に出ることはありません。

※回答用紙をなくした場合には、必ず学校に相談してください。お友達のをコピーして使わないでください。

※記入済みのアンケートは、封筒に入れて提出してください。この時、アンケート調査票に表示されている10ケタの番号のうち下3ケタを提出用封筒の所定の欄に、記載してから、封入してください。

2) 休目についてお答えください。						
Q13	屋外にいる時間は1日平均どのくらいですか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q14	読書や塾などで、1日平均どのくらい勉強や読書を行いますか？ <small>(テレビなどデジタル機器によるものをあはせず)</small>	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q15	パソコンやタブレット端末（机に設置したタイプのもの）を、1日平均どのくらい使用しますか？ <small>(勉強以外の時間もあはせず)</small>	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q16	画面を手で持ち、手元を見ながら楽しむタイプの機器（スマートフォン、ゲーム機（DSなど）、手のひらサイズの電子書籍（Kindleなど））を、1日平均どのくらい使用しますか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q17	テレビ画面を1日平均どのくらい視聴しますか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上

調査票番号：21-09-004-102

提出用封筒

1 0 2

例示
(同じ数字を記載しないよう、ご注意ください)

調査票番号：

児童生徒の近視実態調査（生活アンケート）

近視に関連すると考えられている、屋外活動や近業（目の近くで作業をすること）などについてお聞きします。

ご本人が記入するようお願いいたします。設問ごとに、最も近いと思われる答えの一つを選んで、答えを○で囲んでください。

Q1	眼鏡またはコンタクトレンズを使用していますか？	使用していない	眼鏡のみ 使用している	眼鏡及びコンタクトレ ンズを使用している	コンタクトレンズのみ を使用している	
Q2	オルソケラトロジー（夜のみつけるコンタクトレンズ）を現在または半年以内に装着していますか？	はい	いいえ			
Q3	ご両親に近視の方はいますか？ ※ご両親に確認を取ってお答えください。なお、答えたくない場合は、答えなくてもかまいません。	いいえ	父親のみ 近視	母親のみ 近視	両方とも 近視	わからない・ 答えたくない

下の質問のうち、「平日」とは月曜から金曜の学校のある日を指します。また、「休日」とは、「土日祝日」などの学校のない日を指します。

過去1カ月の平均をお答えください。設問ごとに、最も近いと思われる答えの一つを選んで、答えを○で囲んでください。

1) 平日についてお答えください。

Q4	学校の休み時間（昼休みも含む。）には、屋外に出ますか？	ほとんど外に出ない	昼休みや、長い休 み時間に、たまに	昼休みや長い休み時 間は、半分くらい	昼休みや長い休み 時間は、たいてい	短い休み時間でも、 出られるときはいつも 外に出る
Q5	学校の授業や休み時間以外で、屋外にいる時間（登下校の時間は含みません）は1日平均どのくらいですか？ ※学校が終わった後の外遊びや、登校前の野外活動、屋外での朝練や放課後練などの合計をお答えください。	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q6	学校への登下校のうち、徒歩または自転車の往復時間を教えてください。	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 40分未満	40分以上
Q7	学校以外（家庭や塾など）で、1日平均どのくらい勉強や読書をしますか？ （パソコンなどデジタル機器を使っている時間は含みません）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q8-1	学校以外（家庭や塾など）で、パソコンやタブレット端末（机において使うタイプのもの）を、1日平均どのくらい使用しますか？ （勉強以外の時間も、含みます）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q8-2	パソコンやタブレット端末を、30分以上続けて使わないなど、目を休めるためのルールを家庭で（自分で）決めて使っていますか？	ルールは決めていない	20分～30分使っ たら、いったん目を 休めている	1時間使ったら、いっ たん目を休めている		
Q9-1	画面を手で持ち、手元を見ながら楽しむタイプの機器（スマートフォン、ゲーム機（DSなど）、手のひらサイズの電子書籍（Kindleなど））を、1日平均どのくらい使用しますか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q9-2	スマートフォンやゲーム機などを、30分以上続けて使わないなど、目を休めるためのルールを家庭で（自分で）決めて使っていますか？	ルールは決めていない・ ルールは決めたがあまり 守れていない	20分～30分使っ たら、いったん目を 休めている	1時間使ったら、いっ たん目を休めている		
Q10	テレビ画面を1日平均どのくらい視聴しますか？ （ゲーム機をつないで使用する場合も含む）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q11	平均何時に起きますか？	5:00より前	5:00-5:59	6:00-6:59	7:00-7:59	8:00以降
Q12	平均何時に寝ますか？	21:00より前	21:00-21:59	22:00-22:59	23:00-23:59	24:00以降

2) 休日についてお答えください。

Q13	屋外にいる時間は1日平均どのくらいですか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q14	家庭や塾などで、1日平均どのくらい勉強や読書をしますか？ （パソコンなどデジタル機器によるものを含みません）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q15	パソコンやタブレット端末（机において使うタイプのもの）を、1日平均どのくらい使用しますか？ （勉強以外の時間も、含みます）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q16	画面を手で持ち、手元を見ながら楽しむタイプの機器（スマートフォン、ゲーム機（DSなど）、手のひらサイズの電子書籍（Kindleなど））を、1日平均どのくらい使用しますか？	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上
Q17	テレビ画面を1日平均どのくらい視聴しますか？ （ゲーム機をつないで使用する場合も含む）	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上 120分未満	120分以上

調査票番号：